

本県リンゴ産業の人手不足の特徴は。

「5～7月の摘花・摘果時期と9～11月の袋取りから収穫までの二つが作業のピークで、雇用も集中する。2020年の農業統計では、6カ月未満の臨時雇用をする農家は、全国平均の12%に対し本県は28%。特に中南地域のリンゴ産地は臨時雇用の割合が高いと思われる」



「リンゴ生産現場では、作業への慣れが必要だ。一定の経験を持った人を、特定の時期に多くの農家で必要としているのが特徴。同じ時期に集中するので農家の不足感も強い」

人材開拓へ地域連携を

の最低賃金の引き上げ幅が大きく、生産者は厳しい経営状況の中で引き上げに対応してきた。農業経営は収益が不安定な面があり、大幅な賃金

「例えばスーパーマーケットのパート雇用者と賃金水準は同じでも、スーパーは近場で屋内作業、農業は遠くの園地で屋外作業で、農業のほうが

増は容易ではない。また、人手が足りず、足りない時に賃金を引き上げて、地域内での人の取り合いになる」

「他の業種から呼び込めな

「地域としての対応は、

「職種によっては既にある、

「ハードルが高い」

弘前大学農学生命科学部 泉合眞実教授(農業経済学)に聞く

上記の画像は、当該ページに限り”東奥日報”が利用を許諾したものです。無断転載はできません。